

中央大学 理工学部 電気工学科同窓会々誌

発行日 昭和52年2月1日(火)

発行所 東京都文京区春日1-15-27 中央大学理工学部電気工学科同窓会 TEL (03) 4171 (内)511

あいさつ

会長 大類 若

昨年の総会で皆さんとお会いしてかなり早いもので、もう一年近くになります。御元気の活躍されておられることと思います。さて、その後の学内事情ですが、法・経・商・文の四学部の多大校地への移転ですが、多大校舎の建築も予定通り進行し、五三年には移転のようになりそうです。東洋一の大学に付くとある新聞は出ています。理工学部は、これには体育関係の施設が多大校地に移転するにつれて順次増築が始まる予定で、目下のこと、二号館と実験棟の固に若干の建築不としております。このようは施設拡充に伴い大学院、学部とも研究教育面での条件が飛躍的によくなるものと考えられます。目下、最近の科学技術進歩発展に伴う理工学教育のあり方を考え、大胆に変革する必要があるのではなからいかと考えています。

さて、私が会長を仰せつかうから大分長くなりましたが、この際、卒業生の方が会長に選ばれたら如何でしょうか。先日は、御意見を承りました。次の事項は急には出さないと、思われますが、委員の数も多くなりましたので、今後どうするか研究に伺うるものと思われる事項をあげてみます。

(1) 支費例えは、各別卒業別のものを(2) 同窓会の事務、これは卒業生の数が増加すると事務が飛躍的に増加するが、この処理は、これまでの学内役員だけでは処理しきれないが、事務が予想されます。(3) 会費の問題、これまで卒業時に総身会費のみですが、これだけでは賄いきれなくなるのではなからいか。等々、これから委員の数も増加し、委員の分布も全国的になりますので、会の発展のため、御意見も承りたいものです。

以上

ごあいさつ

主任教授 福沢寛

電気工学科主任(昭和五十一年度)として同窓会員の皆さんに心からのごあいさつを申しあげます。理工学部創設以来既に二十八年を経過し、電気工学科の発展と共に同窓会も年々盛大になり、親睦の実をあげていることは、誠によろこびにたえません。

さて、ご承知のように、わか中央大学は多摩校地への移転と理工学部校舎の大増築という大規模の大発展に向って着々と準備を進めており、学内の教育活動もこのスケジールに合わせて行なっております。この大計画が完了した暁には、多摩校地には東洋一の麻倉を誇る大校舎群が出現し、理工学部校舎面積は現在の二倍余となり、大学の面目を一新すると共に、教育条件も大幅に改善(学生数は現在数よりやや減少させる)される手はずにたつております。詳細については本学の各種資料に譲ることにし、次に電気工学科の動静について簡単にお知らせいたします。

- 目下の電気工学科のメンバーは次の通りです。
- | | | |
|------|-------|------|
| 梅原忠利 | 大類 若 | 北村賞一 |
| 小林健一 | 福沢寛 | 山下美雄 |
| 吉久信幸 | 猪狩武尚 | 遠藤正雄 |
| 神原剛 | 木下源一郎 | 藤田庄司 |
| 高橋雄造 | 安藤敏雄 | 有馬純照 |
| 市川反之 | 鈴木昭太郎 | 深井 昌 |
| 山口高文 | 木村洋 | 西山清之 |

星野修一 松村真
出村裕紀 松浦紀子

遠藤助教授は昭和五十一年四月から、西ドイツのミュンヘン工科大学高電圧研究所において、中大大学在外研究員として研究を行ない、同月に帰国されました。

高橋助教授は昭和五十一年四月から、西ドイツのミュンヘン工科大学高電圧研究所において、フンボルト財団留学生として研究中で、来る三月下旬に帰国される予定です。

学生の就職状況は、景気の小康の影響で、昨年度を底として、やや上向き傾向にあり、一同胸をなでおろしているところですが、学生の就職については、同窓会員有志に多大のご尽力をいただきました。ここに厚くお礼を申しあげると共に、今後とも一層のご協力をお願いいたします。

終りに、皆様のご多幸をお祈りして筆をおきます。

お願い!!

名簿発行について

今回の総会後に一九七七年版名簿を作成し、七月頃発行いたします。価格は約一、三〇〇円の見込みですが、ご入会がいなかき返信用のハカキでお答えください。

同窓会総会の幹事として

昨年の同窓会総会において次回(すなわち今年)の幹事会社は、お前のところまでやれとのご指名があり、何事にも反対しない小生の性分から、気軽に承知したわけです。

しかし、総会を開くべき時期が近づくにつれて、本格的に計画しなければならぬ段になって、一人では何事もできないことに気が付きました。それが気がかりになって、というのが本音です。

同窓会名簿によれば、我が社(日本アイ・ビー・エム)の中にも、中大、電気工学、材料卒の方が、なっていました。と、思えば、社内のあるところと、電話連絡を始めて、以外にもわりあいて、近々に同窓会まで発見は、して、敬請いたし、喜んで、いっしょに、なりました。

同じ会社の中にも、いっしょに、同窓会まで、発見することには、このような、動機でも、無ければ、ならない。難しい、ことを、身をもって、感じたわけですね。

そこで、今回の同窓会総会の開催にあたって、お呼びがかかる、だけ、多くの、卒業生に、出席して、お呼びがかかる、こと、また、各企業業内における、卒業生間の、連絡、を、密に、する、よう、お願いを、した、次第、です。同窓生、諸氏、の中には、多少、強引、とも、思われる、小生、からの、突然、の、電話、連絡、に、びっくり、された、方も、多く、おられる、と、思っています。

各期毎の卒業生の一人にキーマンになって

いただきました。同期卒業生五名の出席者確保を、願います。と同時に、それとは別に、各企業業内のキーマンも、指名させてもらって、企業業内での、中大・電気工学材料卒卒業生への、連絡、をお願いを、した、わけ、です。このような、方法、で、面方向、からの、マテリアル、入、で、広い、範囲、の、卒業生に、連絡、が行、ま、れる、こと、を、期待、しています。

同窓会総会には、同期の卒業生の方々が、出席して、得る、一、年、に、一、度、の、貴重な、機会、です。今年、は、各、人、に、名、札、を、付、け、て、い、た、だ、ま、な、り、同、窓、会、社、名、氏、名、を、記、し、氏、名、を、明、記、し、た、り、同、窓、会、に、出、席、し、て、い、た、だ、ま、す、こと、を、お、願、い、し、ま、す。

同様に、卒業生見本の四年生、卒業生など、就職事情の、厳しい、一、年、が、あ、つ、た、こ、ろ、を、思、い、希、望、者、に、合、格、判、断、適、用、に、よ、る、に、卒業生、の、諸、氏、の、場、所、を、提供、し、ま、う、と、思、い、ま、す。本年、春、の、新、入、社、員、予定、者、に、対、し、る、先、輩、諸、氏、の、う、の、有、益、な、る、ア、ド、バ、イス、を、お、願、い、し、ま、す。

それでは、先、生、方、は、じめ、同、窓、生、の、皆、さ、ん、三、月、五、日、の、同、窓、会、総、会、に、お、い、て、大、に、飲、め、食、い、し、ま、す。語、ら、い、ま、す。に、お、願、い、し、ま、す。有、益、な、な、り、の、時、を、過、す、こと、を、期、待、し、ま、す。お、願、い、し、ま、す。

オ二期卒業生 小笠原 謙蔵
日本アイ・ビー・エム(株) 勤務

電報でも。このことは、わたくしは、ロマンチズムの理想を

六月十二日東京電報「郵局の商用試験」と題

始つたロマンチズムの理想は、技術の進歩に多大の貢献

を成すに在り、故に、或採用すべき。

ロマンチズムの理想は、加へて、格別の商業機

会の形、電子交換機は、昭和六年六月十日に

その試験の結果、その理想は、その理想以上の結果

を得た。今後は、電報の交換機として、頻りに使

入るべきである。ロマンチズムの理想は、世界の

マに、何時までも、新サービスのための、経済的提議

の、実現に、その理想を、持つことである。これは、

引續して、その理想が、加へて、その理想に、近づく

べきである。ロマンチズムの理想は、その理想に、

その理想以上の結果を得た。

我が國の電子交換は、アメリカの、AT&Tに、次ぐ

商用試験を持つ。これは、その理想が、その理想に、

その理想以上の結果を得た。

同様の結果を得た。

「電報」(The Telegraph)の、その理想は、その理想に、

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

「電報」の理想は、その理想に、その理想に、

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

以上

「ロマンチズム」の理想

39年度第4 編譯 公彦

「ロマンチズム」の理想は、その理想に、その理想に、

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

その理想以上の結果を得た。

健康について思うこと

四期 川喜田 良行

健康はすべてに優先する宝である。普通健康である時は感じないことであるが、一度病気をすると痛切に健康の有難さを感ずる人間は弱いもので、ごくわずかな故障でもすべて、行動に影響を与え、或々が現社会に於てその役目を果すために如何にもまして健康であることがオマである。

私は生を得てから現在迄に病氣らしい病氣を三度経験している。最初は小学校二年の時にハシカから中耳炎を併発した時で、二学期の成績が全く記載されなかったことが思い出される位で、鮮明に記憶がよみがえらない。

次は、会社に入社してから昭和三十七年から三十八年にかけて肋膜炎を起し、約一年の療養生活を送った。この時は、油のりキントの頃は、事は、おもしろく、自信も充分あり何をやっても愉快で思う様に進んでいた。無理することは何でもなく体力に自信があり病氣など知らない一時期であった。

しかし肋膜炎を起し病院に入れられ思ったことは、体力の限界を知ること、時には限界を超えたことを回復するまで充分休養を取ること、二度と大きな病氣にかからぬ様に自分自身の状態をみづめ、異常の

有無を確認することであった。

「のど元すぎれば悪さ忘れる」という諺にある通り、それから十三年間病氣らしい病氣もせず再び健康の有難さを忘れかけている矢先、昨年胃をこわしていることが発見された。今考えみて、特に自覚症状は全く診断の通り神経性のものらしいが、ここで再び思い知らされることとなった。幸い入院もせず快方に向い、もう心配いらぬ様になったが、現社会において我々は少なからず知らないうちにストレスを受けている。即ち常に色々な事柄が絶えず我が身にふりかかってきておろ、これに耐え考え処理して我々は生活している。何と云っても健康であることが一番だ。これなくしては思い切り張りきって業務を遂行することもスポーツを樂しむことも出来なへし、又遊ぶことも出来ない。

健康は何と云っても大切だ。知らないうちに健康の有難さを忘れていくことはほないだろうか？

同僚のオマは皆、忙しい職務についておられ日々神経をすりへらしておられることと思ふ。

家に帰られて一分間でも良い我が身の状態が万全であるか、快調か、悪いと思ふ所がないか、考えてみよう。そしてその場

我が身に對し納得して健康であることを認めよう。自身ことは自分が一番よくわかるはずである。

最後に繰り返して申し上げたい。この世の中で最も大切なものは何をおいても健康であることである。

そして一日一日健康であることを感謝し、明日の活力とし、社会に對して己の責任を果して行きたいと思う。

昭和五十年度会計報告

支出の部	
50年度總會費	375950
通信及び印刷費	271067
アルバイト代	6400
事務運営費	40000
名簿関係アルバイト代	0
通信費	0
印刷費	0
事務費	0
慶弔費	12840
次年度繰越金	1234607
計	1940864

収入の部	
前年度繰越金	1258434
總會會費	377500
預金利息	15530
名簿売上代	1400
終身會費	288000
計	1940864

編集後記

昨年十二月才二十一回幹事会を開き、今年度の同窓会の件を決定しました。幹事会には、本年の幹事会社である日本I.B.H.(小笠原氏以下五名)、昨年幹事会社の労を賜った八洲電機を始めとして、多数の方の出席を得、活発な議論が行なわれました。重大議題は、総会の件でしたが、その中に、会長改選の問題(卒業生から選ぶ件)、名簿の発行、会員から電気工学科学生に講演を、お願いする件等、種々御意見を伺いました。今後、更に議論を深め、進展を見たいものと願っています。

会員異動

電気工学科事務室の二人のお嬢さん(松浦さん、出村さん)にお願いしています。また本会誌も二人の筆によるものです。ここに厚く御礼申し上げます。

(52.1.21 M.E記)

- 猪狩武尚氏(昭和51年) 昭和51年11月 卒業生 昭和52年 教授(早稲)
 - 海和豊氏(41年卒) 昭和51年 秋 御結婚
 - 大藤勝國氏(42年卒) 昭和51年 御結婚
 - 黒沢直之氏(51年卒) 昭和51年 10月 御結婚
 - 曾原正人氏(49年卒) 昭和51年 10月 御結婚
 - 松村真氏(50年卒) 昭和51年 10月 長男誕生
- 本会大幹事
市川友之氏(53年卒) 父君御遷去(昭和51年)